

文理科学科通信

京都府立福知山高等学校

みらい学

文理科学科講演会

社会科学から「学問の秋」を満喫

みらい学



社会人講師による講演会の取組の第5弾として、11月18日(火)、神戸大学より講師をお招きし、「みらい学」講演会を本校視聴覚教室において実施しました。講師は、

神戸大学 国際文化学部 准

教授 貞好康志先生で、先生

が長年にわたり研究してこ

れた「東南アジアの華僑・華

人」というテーマで御講演い

ただきました。先生の現地での研究された成果や御経験について、写真などを交えて、地理的側面と歴史的側面から説明していただくことができました。その奥行きの内

容に、中国と東南アジアに関する具体的なイメージが膨らみ、想像を膨らませながら臨場感溢れる感動を味わうことができました。生徒たちは現在、グループに分かれて発表の準備を進めており、9月に実施された京都大学 大野教授による講演会についての発表会と並行して、1月末にポスターセッション形式による発表を目指します。

(綾部中学校出身)

東南アジアが日本よりも発展している、その事実には驚かされた。東南アジアとい

うと、権力者だけでなく一般人の力が重要であったことを再確認することができた。華僑・華人の人々は自ら進んで海外に出て行った人もいれば、無理やりに連れてこられた人たちもいる。歴史の「光」の部分と「影」の部分を見た思いがした。その両方に、今回の講義で指導していただいた視点を据えて頑張っていこうと思う。

みらい学

11月12日(水)、文理科学科2年生を対象とした「みらい学」講演会が、神戸大学工学部 教授 新井敏康先生に御協力いただくことにより実現しました。「みらい学」としては本年度唯一の開催となるこの講演会は、2年間の「みらい学」研究の最後の講演となりました。およそ1年ぶりの講演会の開催に期待を寄せる生徒も多く、熱気を帯びた空気の中、講演会はスタートしました。御講演いただいた新井教授には「大学における高等学校数学の役割」というテーマで、自然科学分野の数学について中心にお話いただき、身近な日常レベルで



(三和中学校出身)

今日は神戸大学の新井教授から講演をしていただき、大学の授業の雰囲気をも十分に味わうことができました。講義の内容としては難しく理解しにくいところもたくさんあったが、難しくければ難しいほどそれだけ大学に行きたいという気持ちが増した。そして、今は理解できないことでもこれから先も頑張って勉強し、理解し消化し、大学でもう一度同じ内容の授業を受けるときには理解できるようになりたいと強く思った。

の数学の応用から大学数学の初歩的な内容まで多岐にわたり、さまざまな考えるヒントをいただくことができました。受講していた文理科学科1期生の生徒たちはアカデミックな雰囲気の中、大学レベルの数学のレベルとスピードを体験し、それぞれに知的好奇心を奮い立たされる貴重な体験をすることができました。これまでの数学に対する取り組む姿勢を振り返った、発展的な学習に対する意欲をさらに向上させることができました。今回の講演会については研究発表を行いました。この講演会から学んだ多くの知識は必ずや今後の高校生活や大学受験に活かされるもの、将来の研究活動へとつながるものと確信しています。